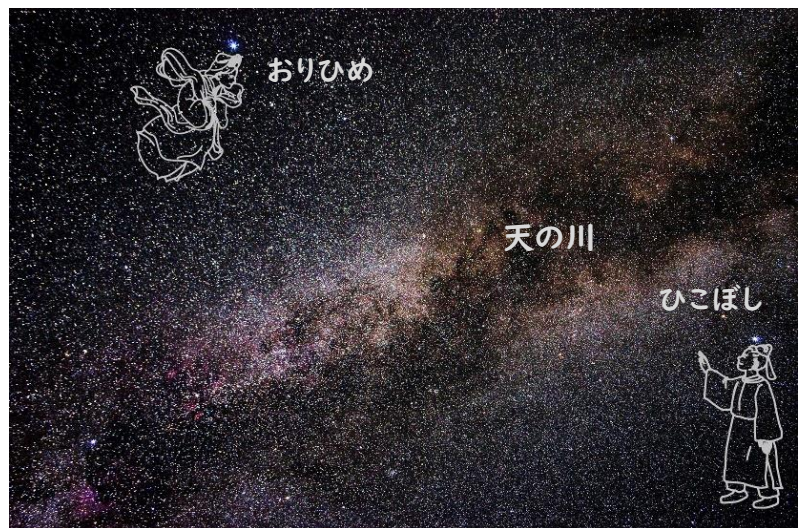


七夕について

7月7日(地域によっては8月)七夕の日は「天の川を挟んで別々に暮らしている織女(織姫)と牽牛(彦星)」が1年に1度だけ天の川を渡って会える日。この日は願い事を書いた短冊や七夕飾りを笹につるして家の軒先にかけて、願い事をする。現代の日本ではこんなロマンチックな行事として知られています。もとは中国の行事であった七夕が奈良時代に日本に伝わり、7月7日に手芸上達を願う行事として始まったようです。その後江戸時代には「五節句」の一つとして7月7日が七夕と定められたようです。



夏の天の川 撮影:足田 純之、イラスト:松本 萌

現代もおこなわれている節句の行事は他にも1月7日七草の節句(七草)、3月3日桃の節句(ひな祭り)、5月5日端午の節句(こどもの日)などがあります。

しかし毎年7月7日は梅雨の盛りで星を見る事がむずかしい時期、なのになぜ多くの地域でこの時期におこなわれるのでしょうか。もともとは旧暦の7月7日に行っていた七夕行事。明治6年の改暦により、暦が変わっても7月7日の行事として続けられてきました。旧暦での7月は今の暦では8月頃、この頃なら梅雨も終わって星がよく見えます。西の空には二人を乗せ天の川を渡る船のような形の月齢6の月が浮かんでいます。今年は8月14日が旧暦の7月7日にあたります。今年この8月14日にも星を見上げてみてはいかがでしょうか。

(解説員:足田 純之)